



第78回西播高等学校陸上競技対校選手権大会

ウイック陸上競技場 令和7年5月10日(土) 11日(日)

男子 (参加校28校 参加人数311名)

総合優勝 姫路商業

優秀選手 檜崎 蓮(姫路飾西2)

シーズン当初から調子が良くなり、不安がありました。しかし、西播大会一種目目のハンマー投で自分が思い描いていたものに近い記録を出すことができ、今までやってきたことが間違いではなかったと自信を取り戻すことができました。それが砲丸投の結果にもつながったと思います。県、近畿とさらに調子を上げていき、全国大会に出場したいと思います。

女子 参加校26校 参加人数176名

総合優勝 姫路女学院

優秀選手 幸長 愛美(姫路女学院2)

このたび、優秀選手賞という賞をいただき、とても嬉しく思います。日々の練習を支えてくれた仲間や指導してくださった先生方のおかげで、ここまで頑張ることができました。結果を残せたことは、これからの自信に繋がると思います。今後も努力を惜しまず、チャレンジの気持ちで、さらに上を目指して頑張っていきたいです。

《1日目》-トラック-

スローな展開となった女子1500m。三木(姫路女学院1)を先頭に400mの通過は1分21秒。龍野の平尾(3)、綱井(3)、秋田 彩乃(2)、龍野北の芳川(3)が互いにけん制し合い、大きな集団のまま800m-2分46秒、1200m-4分4秒で通過。残り200mで平尾が仕掛けるも、秋田がゴール直前で平尾をかわし4分57秒19で勝利。2位の平尾は4分57秒45であった。男子1500mでは、富永(東洋大姫路2)が積極的にレースを展開。山本 達稀(龍野3)、中島(姫路2)とともに400m-1分5秒、800m-2分13秒、1200m-3分20秒で通過し、勝負は残り300m。ここでタイミングを見計らっていた山本がもう一段階ギアを切り替え、後続を引き離し4分4秒86で勝利。1500mは龍野勢がアベック優勝を果たした。果敢に挑んだ富永は4分5秒28、昨年度県ユース大会2位の中島は4分8秒87で3位。

女子100mHでは、予選をトップ通過した家氏 美和(姫路飾西2)が決勝でも快走。持ち前のスプリント力でぐんぐん差を広げた家氏が向い風2.8mの中、14秒72の好タイムでフィニッシュ。男子110mHは山本創士郎(飾磨工2)と福永(姫路2)の2年生対決。向い風3.9mの中、力強いハードリングで先頭を死守した山本が15秒37で快勝。福永は16秒04で2位、須方(姫路飾西3)は16秒19で3位。女子400mでは、近畿ユース大会の覇者・幸長 愛美(姫路女学院2)がスタートから圧倒的な強さを見せる。岩崎(姫路女学院3)と長谷川(同2)が追うも、ラスト100mでさらにその差を広げた幸長が56秒91の好タイムで圧勝。2位の岩崎は58秒06、3位の長谷川は59秒80と姫路女学院勢が上位を独占した。男子は4月に48秒04をマークした黒田 悠希(姫路商2)が序盤から軽快な走りで他を圧倒。大会記録[47秒88]の更新とはならなかったが、48秒57の好タイムで勝利。2位の村瀬(姫路西3)は49秒26。

400m決勝から15分後に行われた女子100mでも幸長 愛美(姫路女学院2)が躍動。向い風4.4mの中、昨年度の覇者・権藤(同3)と今大会100mHの覇者・家氏(姫路飾西2)との三つ巴の戦いを12秒41で制した。2位の権藤は12秒58。姫路女学院勢の県大会でのハイレベルな戦いに期待したい。男子100mは矢田 晋啓(龍野3)が大きなストライドで中崎(姫路商2)と上原(同3)を引き離し11秒11で勝利。

タイムレース決勝で行われた3000m障害では、2組に記録上位の選手が出場。玉田(県立大附3)を先頭に1000m-3分12秒、2000m-6分37秒とややスローなレース展開。しびれを切らしペースアップを図ったのは福井 翔(姫路西3)、吉川(龍野2)、中田(姫路工2)、妹尾(姫路商3)の4名。残り1周でさらにギアを切り替えた福井が9分57秒32で勝利を飾った。

女子4×100mリレーでは姫路女学院[津田-権藤-幸長-岩崎]が大会記録[47秒66]更新を目指す。個人の走力に加え、安定感のあるバトンパスを見せ47秒72の好タイムでフィニッシュ。大会記録の更新はならなかったが、県大会での活躍が大いに期待できる好タイムであった。2位の姫路飾西は49秒80、3位の姫路西は50秒53であった。男子4×100mリレーでは、6レーンの姫路南海稜[矢野-大野-太田-中野]、5レーンの東洋大姫路が先行。姫路工業が技術力の高いバトンパスで差を縮めるも、姫路南海稜の4走・中野が逃げ切り43秒44で勝利。東洋大姫路は44秒30、3位の姫路工は44秒45であった。

《1日目》-フィールド-

女子棒高跳は昨年同様、赤穂の松本 七虹(3)と亀井(3)の同校対決。勝負強さを見せた松本がノーミスで2m40までをクリアし勝利。2位の亀井は2m00。女子走幅跳では、3回目までに長安 愛海(姫路飾西2)が5m33(+2.1)をマークし首位に。長安はその後も試技ごとに風の強さが変わる中で、5m越えの安定感のある跳躍を連発。5回目には5m39(+3.8)まで記録を伸ばし勝負あり。同じく5回目に5m13(+3.5)をマークした花畑(姫路飾西3)が2位、5m10(+3.5)を跳んだ濱壽(姫路西3)が3位に滑り込んだ。

男子走幅跳では5回目に6m74(+3.9)を跳んだ栗岡 駿(姫路商2)が圧勝。3回目に6m48(+3.1)をマークした藤原(相生2)が、わずか12cm差の中に7名の選手がひしめく接戦を制して大健闘の2位。女子ハンマー投では、中山 愛香(姫路商3)が2投目に39m88を投げ好発進。小東(姫路飾西3)が5投目に37m38まで記録を伸ばすも、中山は最終6投目に39m93まで記録を伸ばし勝利。男子ハンマー投は上位6名が40mオーバーのハイレベルな戦いが繰り広げられた。2投目には浜松(飾磨工3)が47m27、藤田(姫路飾西3)が45m62をマーク。その2人を追うように3投目には檜崎 蓮(姫路飾西2)が46m74、中野(姫路工3)が47m37まで記録を伸ばす。5投目に49m25まで記録を伸ばした浜松を檜崎が49m69を投げ逆転。

女子円盤投では、1投目に32m33を投げた石田 羽音(日ノ本1)が6投目に32m63mまで記録を伸ばし、昨年度の覇者・石田(姫路飾西2)を破る大金星。1年生チャンピオンが誕生した。男子円盤投では、5投目に38m31を投げた中野 椋哉(姫路工3)が貫録勝ち。昨年に続き2連覇を達成した。ハンマー投の覇者・檜崎(姫路飾西2)が35m03で2位、荒木(香寺3)が5投目に34m23を投げ3位に滑り込んだ。

《2日目》-トラック-

女子5000m競歩は、唯一の出場者・伊賀 菜花(姫路女学院2)がスタートから積極的なレースを展開し、1000mを4分57秒で通過。その後はややペースを落とし28分6秒28でフィニッシュ。県大会での活躍に大いに期待したい。5名の出場者で行われた男子5000m競歩は、小西悠仁(姫路工2)が一人旅。PB更新とはならなかったが26分55秒08で堂々の1着。2位の金治(相生産2)は28分41秒47、3位の三木(太子3)は28分55秒83。女子400mHでは、近畿ユース大会2位の家氏 美和(姫路飾西2)が力強いハードリングで徐々に差を広げ、1分2秒13の好タイムで圧倒的な強さを見せた。2位の濱壽(姫路西3)は1分6秒18、3位の河本(姫路女学院3)は1分8秒22。男子400mHは昨年度の覇者・森田 朔空(姫路商3)が前半から伸びのある走りで果敢に攻める。河野(姫路商2)と溝上(姫路東2)が懸命に食らいつくも、技術力の高さを見せた森田が54秒13で圧勝。県ユース大会覇者の実力を見せつけた。

大会2日目も幸長 愛美(姫路女学院2)の勢いが止まらない。女子200mでもスタート直後からリードを広げ、ホームストレートではすでに独走。向い風3.7mの中、25秒43でフィニッシュ。近畿ユース大会覇者の実力をいかに発揮した。幸長を懸命に追った岩崎(同3)が26秒28で2位、井上(網干3)が26秒89で3位に入賞した。男子は21秒台のPBをもつ上原 瑞生(姫路商3)と村瀬(姫路西3)の一騎打ち。ほぼ同時にゴールしたように見えたが、上原が22秒47で接戦を制した。村瀬は22秒50で惜しくも2位。女子800mは長谷川真理(姫路女学院2)を先頭に400mを1分5秒で通過。ラスト200mでさらにギアを切り替えた長谷川が2分18秒49でフィニッシュ。昨年優勝した姉の長谷川詩真選手の記録を0.3秒上回った。2位の秋田(龍野2)は2分21秒24、3位の吉田(琴丘2)は2分25秒86。男子800mは記録上位の選手が予選、準決勝で姿を消す波乱の展開に。決勝では内海(相生3)が積極的に集団をけん引。残り200mからのラスト勝負を藏屋 歩都(姫路商2)が制し、2分1秒45で栄冠に輝いた。上田(同3)が2分1秒80で2位、足立(姫路工3)が2分1秒99で3位に入賞した。

女子3000mでは、昨日の1500m同様、非常にゆっくりとしたレース展開で大きな集団のまま1000m-3分33秒、2000m-7分9秒で通過。龍野北の芳川(3)、龍野の平尾(3)と綱井(3)、姫路女学院の佐伯(2)と藤田(1)がけん制し合う中、仲田 そら(姫路2)とのラスト勝負を制し10分32秒32で勝利。2位の平尾は10分32秒91、3位の芳川は10分33秒43。男子5000mでは、富永 暁生(東洋大姫路2)、高田(香寺3)、山本(龍野3)、中島(姫路2)がレースの主導権を握る。高田がオープンペースで3000mを9分32秒で通過すると、富永が一気に先頭に立ちペースアップ。この間の1000mを3分で走り、残り1000mも軽快な走りで独走を続け15分27秒96でフィニッシュ。2位の高田は15分34秒98。

女子4×400mリレーはメンバー全員が100m～800mで上位入賞を果たした姫路女学院[長谷川-岩崎-丸尾-幸長]が実力の違いを見せる。長谷川からバトンを受け取った岩崎が後続との差を大きく広げ3走の丸尾へ。姫路商業と姫路西の熾烈な2位争いをよそに、先頭の丸尾はダイナミックな走りで快走を続ける。そして独走となったアンカーの幸長も、攻めの姿勢を崩さず堂々1着でフィニッシュ。惜しくも大会記録[3分53秒34]更新とはならなかったが、3分53秒79の好タイムで圧勝。幸長は100m、200m、400mで個人種目3冠を達成。女子優秀選手に選出され、姫路女学院の女子総合優勝に大きく貢献した。また4×100m、4×400mを合わせて5冠を達成したのは西播地区史上3人目の快挙であった。2位の姫路西は4分12秒85、3位の姫路商業は4分15秒57。男子4×400mリレーはリレーカーニバル3位入賞のメンバーを2名擁した姫路商業[野間-栗岡-河野-黒田]が序盤から積極的にレースを展開。独走状態でも攻めに徹した姫路商業が貫録を見せつけ3分22秒48で圧勝。琴丘が姫路南海稜との接戦を制し3分26秒85で大健闘の2位。姫路南海稜は3分26秒90であった。

《2日目》-フィールド-

男子走高跳において1m75をクリアしたのは西村 颯真(姫路工3)、松下(龍野北2)、矢野(姫路南海稜3)の3名。2回目で成功させた西村に試技数差で軍配があがった。女子走高跳は小寺澤杏俐(姫路女学院2)が大きな弧を描いてただ一人1m50をクリアし勝利。井上(姫路東2)と池内(姫路3)が1m45で同率2位。男子三段跳は、昨年度2位の鹿島 聖規(姫路商3)が13m越えの安定した跳躍を見せる。鹿島は最終6回目に勝負強さを見せ13m88(+2.6)まで記録を伸ばし優勝。3回目に13m11(+2.8)をマークした益田(姫路飾西3)が2位に滑り込んだ。女子三段跳では魚住(赤穂3)が1回目に10m83を跳び首位発進するも、長安 愛海(姫路飾西2)が3回目に11m23を跳び逆転。走幅跳と合わせて跳躍種目2冠を達成した。5回目に10m86を跳んだ西本(播磨夢福3)が魚住を逆転し2位に。

女子砲丸投では山田 幸奈(賢明3)が、最終6投目に9m46を投げ勝利。3投目に9m13を投げた高橋(姫路飾西2)が2位、3投目に8m79を投げた長澤(姫路女学院1)が3位に入賞した。男子砲丸投では近畿ユース大会の覇者・檜崎 蓮(姫路飾西2)が1投目に13m44を投げ、力の差を見せる。その後も安定した投てきで5投目にはさらに13m48まで記録を伸ばし圧勝。ハンマー投、砲丸投の2種目を制覇した檜崎が男子優秀選手に選出された。2位の中野(姫路工3)は12m03、3位の井上(龍野北3)は11m65。女子やり投は坂田 楓羽(姫路女学院3)が4投目に37m14を投げ圧勝。昨年に続き2連覇を達成した。稗田(姫路西2)が33m35で2位、嶋(香寺3)が29m94で3位。

男子やり投は1投目に51m30を投げた岡本 智輝(姫路工3)が貫録勝ち。昨年に続き2連覇を達成した。3投目に大幅な自己ベスト更新となる47m83を投げた岩本(相生3)が2位に。45m台3名、44m台3名の鎬を削る接戦は3投目に45m92を投げた藤原(飾磨工2)に軍配が上がった。県大会でのハイレベルな戦いに期待したい。

七種競技は、稗田かずみ(姫路西2)がバランスよく順調に得点を重ね3281点で勝利。800mで逆転を目指した松田(姫路3)が3086点で2位に。八種競技は、宮川 航(姫路西3)が最終種目1500mでも集中力を切らさず、岡本(姫路工3)を逆転し4305点で優勝を飾った。2位の岡本は4286点であった。